

令和7年度 鹿沼ケーブルテレビ放送番組審議委員会

議事録

<日時> 令和7年2月24日(火) 11時30分～13時00分

<場所> 鹿沼商工会議所 特別会議室

<放送番組審議委員 出席者> 7名

鈴木 貢	会 長	鹿沼文化協会会長
青木孝雄	副会長	J Aかみつが代表理事組合長
松井正一	委 員	鹿沼市長
谷中恵子	委 員	鹿沼市議会議長
小林俊明	委 員	鹿沼市自治会連合会会長
斎藤陽子	委 員	栃木県社会教育委員協議会会長
高橋真樹	代理出席	鹿沼商工会議所事務局長

<鹿沼ケーブルテレビ株式会社 出席者> 3名

田濤広行	代表取締役社長
野口重彦	統括本部長
高田了輔	放送部放送課長

<議事録作成>

鹿沼ケーブルテレビ放送番組審議会 事務局

1. 開会
2. 鹿沼ケーブルテレビ株式会社 代表取締役社長あいさつ
3. 放送番組審議会 会長あいさつ
4. 放送番組審議会委員 紹介
5. 議事

<議事内容>

(1) 報告事項

- ① 令和7年度「かぬまチャンネル」に関する報告
 1. 加入状況について
 2. 「かぬまチャンネル」番組編成について
 3. 主な番組について
- ② 令和7年度の主な取り組みについて
- ③ 次年度(令和8年度)の予定について

(委 員)

新サービスについて、今市地区か日光地区か、どの辺りの地区になるか。

(CATV)

今市の旧市内を対象にインターネットサービスを始める。コミュニティチャンネルの放送は予定していない。

報告事項について、鹿沼ケーブルテレビ統括本部長の野口より資料を基に説明があり、質問に対しては上記のとおり返答をおこなった。

(2) 協議事項

- ① 「かぬまチャンネル」へのご意見・ご要望

(委 員)

「かぬまチャンネル」は地域に親しまれているが、動画配信ばかり見る若年層の視聴をどうやって獲得するかが一番重要。子どものスポーツ大会は親から子どもまで観ている。放送の情報をどんどんSNSで拡散させるのが大切。5年後、10年後を想定して今から手を打ってほしい。

(CATV)

見ていただく方がどれだけ多くなるかで、ケーブルテレビの価値、企業価値は変わってくると思っている。関係団体の力も頼りつつ、我々の計画がスムーズにいくように日々努力していきたい。動画配信も放送に負けないような形で展開できるようにしていきたい。

(委 員)

朝6時の時間帯にも根強い視聴者がいる。幅広く利用者のニーズに対応できているのではないかと。番組内容に不満はない、市長の定例記者会見などは当日中にも放送され、スピーディーな情報発信にも助けられている。更に活用できるメディアであってほしい。

(CATV)

総務省の令和6年度調査でメディアの平均利用時間を見ると、10代は平日テレビ40分・ネット240分、一方70代はテレビ300分超と世代差が明白。50代でもネットが

テレビを上回っている。これが現実と捉え番組をいかにして見てもらうか、テレビ放送だけでなくネット配信も含め、全世代に幅広く情報発信できるよう進めたい。

(委員)

問題点として、行事などで取材に来てほしいと言ってもイベントが重なる時期だと来てもらえないという話も聞く。そこは少し残念に思う。きっとケーブルテレビで放送されることへの期待、多くの人に見てもらえる機会だと思っていると思う。いろいろと調整が必要だとは思いますが、ぜひ頑張ってください。

(CATV)

今年度のニュースの年間取材数は約320件。取材のご依頼は140件ほどでそのうち伺えたのは100件強。放送枠や人手等リソースの限界はあるが、様々な方面から情報をいただけるというのはやはり地元根付いて30年培ってきたからこそだと思っている。今後も極力地域のイベントには顔を出せるように努めたい。

(委員)

河川の情報カメラは様々な形で子ども達の安全にも寄与しているので感謝したい。今の人は現状で良ければコストをかけてまで新しく何かしようと思う人が少ないと思う。自治会もテレビも同じ。それでも今は光回線を使ったインターネットの時代だから、電波でテレビ見る人は少なくなるだろう、だからケーブルテレビにはまだやれることがあるはず。取材の人手不足については、器用な人に撮影だけ協力してもらうという方法もできないだろうか。

(CATV)

テレビにお金を払っていただくには、やはりお金を払ってでも見る価値のある番組を作っていくなくてはならない。取材リソースについては限界があり、特に人員という一番の問題があるが、知恵を絞れば、市民カメラマンの導入や外注業者への委託など方法はあると思うので、今後検討していく。

(委員)

普段から高齢者や子ども達と接点が多いが、高齢者は「かぬまチャンネル」をよく見てくれている。子育て世代の親も子どもが映ると喜んでいる。学校の話を取りあげられれば、若い子育て世代の視聴が増えるのではないか。「ミルシカ」を見たが携帯で見られて非常に良かった。もっと知ってもらいたい。「Fresh!デイリーワゴン」も取材から放送までが早くなったような気がする。やはり情報は早い方が、皆さん熱いうちに見たいというのがある。情報カメラや「VIVA!KANUMA」での飲食店紹介もよく見ていて情報を得ている。素晴らしいので今後も続けてほしい。

(CATV)

取材は様々な事情で放送までに時間がかかったりもするが、「Fresh!デイリーワゴン」は早く情報を出すのが本来のコンセプトなので、今後も可能な限り心がけたい。市街地の情報カメラは祭り中継等の番組でも活用している。今後も地域の役に立つ映像を増やしていきたい。

(委 員)

商工会議所としてはケーブルテレビの番組の店舗情報を役立てさせてもらっている。地域密着ならではの情報量でスタッフの情報収集力の高さに感心している。若者のテレビ離れは深刻で、ネット配信を活用して若者を取り込み、面白い仕掛けでテレビへ誘導する工夫が必要だと思う。

(C A T V)

若者のテレビ離れは放送業界の課題。民放局は広告収入がネットへ流れてしまい制作費が減っている。従来の「子ども・動物」は通用せず、今はスポーツやライブなど「生」の映像に需要があるとみられる。ネットとテレビを絡めた若年層を取り込む方策を検討したい。

(委 員)

今年度の文化祭開幕式では地元の文化財紹介が非常に好評だった。粟野の「双体道祖神」は栃木県内でも有数で貴重な文化財だが情報発信が弱い。まず、ケーブルテレビで記録して番組を作ってもらい、それをネット配信化して周知し、観光や地域振興につなげられないだろうか。

(C A T V)

鹿沼の文化や日々の暮らしそして地域の課題を、正確かつ魅力的に「伝える」のがケーブルの使命だと思っている。そして「記録する」という仕事もケーブルテレビの指名だと思っている。被災した局の話聞いて失った映像が最も大きな損失であると知った。開局以来30年のストックは貴重なものである。今後も映像で遺すことを積極的に取り組みたい。

以上